12　精神衛生法制定以前に廃院となった私立精神病院
――鵜森と鷺の湯のケース・スタディ――

橋本　明
愛知県立大学教育福祉学部

大正元（1912）年に出された呉秀三の論文「我邦ニ於ケル精神病ニ関スル最近ノ施設」は，当時存在した「精神病者ヲ収容又ハ処置スル設備」を網羅的に紹介している．それらの施設は，「官公立精神病者収容所」，「私立精神病院」，「白痴教養所」，「医療上ノ目的ニアラザル精神病者収容所」の4つのカテゴリーに分けられている．このうち，私立精神病院としては，明治以前および明治以後に設立された「精神病専門ノ私立病院」26カ所に加えて，「慈善的設備ニシテ精神病者ヲモ収容スルモノ」なども記述されている．

本発表でとりあげるのは，上記の私立精神病院の「精神病専門ノ私立病院」に分類されている「永井医院又永井精神病療院（新潟県中蒲原［正しくは南蒲原］郡須田村字鵜森）」と「鷺湯精神病院（島根県出雲國能義郡飯梨村大字植田千二百番地）」である．呉秀三の論文が発表された時点では，前者は現存する最も古くから存在する精神病院であり，後者は創立間もない精神病院であったが，いずれも後に廃院している．二つの病院は，その地域で唯一の精神科医療施設としての歴史が長く，その設立，発展，廃院までの経緯がユニークなためか，近代日本の精神医療史に登場することも稀ではなかった．ただし，資料的な限界からか，従来の不十分な歴史記述がバージョンアップされずに定着するおそれがある．そこで，本発表はこれまでの研究を整理しながら，2011（平成23）年に発表者が行った現地調査で明らかになった新しい知見を加えて，二つの精神病院の歴史を再検討してみたい．

現在の新潟県加茂市にあった永井精神病療院は，永井慈現が寛政年間（1789～1801）に設立した鵜森狂疾院（当初からこの名称だったかは不明）に遡るという．小林靖彦（1963年），蒲原宏（1979年，1994年），丸山朝雄（2010年）らの論文によれば，設立年代には諸説あり，口伝以外に確かな記録はない．また，「慈現」とは，鵜森地区では漢方医を指す屋号のような称号で，当主は代々永井慈現であった．永井山順行寺を継承する本家から分家した家系が初代の永井慈現（1691～1748）で，慈現家は順行寺の門前にあった．したがって後の狂疾院は「順行寺の境内」（小林靖彦）ではなく，門前の慈現の屋敷内に建てられた．呉秀三によれば，近代に入って1894（明治27）年に「設立許可」されたとあるが，精神病療院として「二階建ての病院らしい形態が整った」（蒲原宏）のは1905（明治38）年で，7代目慈現（永井嘉永吾郎，ただし“何代目”の数え方にも諸説あり）の時である．だが，後継者が早世し，その子が他の診療科に進んだことなどから，1922（大正11）年に廃院となった（廃院時期にも諸説あり）．その後，精神病療院の建物は近隣の人が購入し近くに移設されたが，往時の病室の面影を残しながら今も住宅として使われている．近年，加茂市がこの建物の調査を行った．住宅所有者から許可を得て，建物見取図を入手したので発表ではそれを紹介したい．

一方，中原清が1911（明治44）年に島根県能義郡飯梨村（現在の安来市）に開設したのが鷺湯精神病院である．この地は鷺の湯温泉で知られており，呉秀三によれば「病院構内ニ天然温泉アリ温度三十六度六分ニシテ持続浴ニ適当ナリ」という．中原は小学校教員を経て岡山医学専門学校を卒業後，東京帝国大学精神病科選科に入学し，東京府巣鴨病院医員などを経て，郷里の飯梨村に戻った．中原は病院経営の一方で，県会議員，郡会議員，村長も務めた「地元の名士」であった．だが，1936（昭和11）年ころから体調を崩し，その後は近隣の内科医・朝山保が代診をしていた．1941（昭和16）年に中原は死去し，1946（昭和21）年の失火により病院は廃院となり，入院患者は他の病院に移されたという．現在，鷺湯精神病院の跡をしのぶものはほとんど残されていないが，本発表では中原清の末裔から入手した写真資料をもとに，当時の病院の様子を再現してみたい．